

令和５年度 第３回 草津市スポーツ推進審議会 議事要旨

■日時：

令和６年３月５日（火）１８時００分～１９時３５分

■場所：

市役所６階 教育委員会室

■出席委員：

岡本委員、小傳良委員、柴原委員、中野委員、酒井委員、嘉悦委員、西川委員

■欠席委員：

京近委員、田中委員、佐野委員

■事務局：

増田教育部長、岸本総括副部長、田中副部長

スポーツ推進課 堀井課長、遠藤課長補佐、川越主査

■傍聴者：

０名

１ 開会

【事務局】

今年度は（仮称）新志津運動公園整備基本計画の審議を今年度から来年度にかけて行っているところです。

一方、本日は令和４年度の各事業実績の点検・評価およびスポーツ中におけるリスク管理をテーマにご審議いただく予定でございます。委員の皆様におかれましては何かとご多用のなか、たびたびの審議会の開催に御出席いただきありがとうございます。

本日のテーマはスポーツ全般に係るものであり、日頃から感じておられることや実際の取り組みなど、それぞれのお立場から御意見を頂戴し、先にはなりますが、令和７年度の次期計画策定の参考としてまいりたいと考えております。

限られた時間の中ではありますが、委員の皆様の忌憚なき意見をいただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

２ 議事

- ・令和４年度草津市スポーツ推進計画の点検・評価について

事務局が、資料１－１、１－２、１－３に基づき説明。

【会長】

こちらは令和4年度の実績についての内容であり、新型コロナウイルス感染症の影響をまだ受けていた時期のことになる。そういったところで、評価点が「3」となっているところが多く見受けられる。基本方針1の子どもの体力向上についてご質問ご意見等いかがか。

【副会長】

3、4年前ほど前に、小学校の給食で「塩分控え目」の給食に取り組んでおられたと記憶している。その成果が表れたものなのか。

【事務局】

減塩給食については、将来生活習慣病にならないように、子どものうちから塩分を控えめにする、という目的で取り組んでいる。体力向上とは直接影響を与えるものではないが、「健康」あつての体力向上であり、そういった意味では間接的に関係があると言える。

【委員】

部活動について、学校によっては、教員が「顧問をしたくない」という状況にある。

30代以上の教員は、比較的過去の部活動の意義を理解しておられ、熱心に取り組まれる方も多いが、若い先生方はそういう認識を持たない中、時間外勤務を当たり前に行っている状況。部活動の地域移行も進んでおらず、部活動単独、中学校単独で下校時刻を早めるなど、教員の働き方改革を進めようとしても、保護者からの理解が得にくいといった課題があり、現場は苦しんでいる。

【会長】

委員の方からご指摘いただいた内容について、教育委員会として議論はされていると思うが、議論の進捗はどのようなになっているか。

【事務局】

地域移行を進めていくという方向で部活動指導員、部活動支援員を増やし、教員の負担軽減を図るべく進めている。国が掲げていた地域移行は、国が腰砕けになっている状況で、思い切ったところまでできないのが現状。草津市としては受け皿の問題があるので、そこをどうしていくかを、プロジェクトチームで定期的に議論し、色々模索しているところである。

【事務局】

先ほど御説明いたしました、基本方針1の実績について、令和5年度の結果が公表されていたので御報告させていただく。

小学生男子、中学生男女とも、全国平均を上回っており、小学生女子については、全国平均には届かなかったものの、県平均は上回っている状況である。

小学校では、体力向上の取組を続けていただいている中で維持ができており、中学校では、元々部活動は盛んに活動していただいているので、元々全国・県平均より高い数値を維持できているが、課題である「部活動のあり方」については、議論を続ける必要がある。

【副会長】

中学校の部活動では、廃部になってしまうケースもあると聞いている。中学校によっては部活動が2つ、3つしかないところもあると聞く。また、働き方改革の観点からも、時間外に活動できないという顧問もいると聞いており、残業手当が支給されれば解決されるのか、指導員等を配置すれば部活動は発展すると考えているのか、そのあたりはどのように考えているか。

【事務局】

運動自体は進めていかななくてはならず、競技力向上についても取り組んでいかななくてはならないと考えている。そのうえで、教員の働き方改革の話があったが、地域移行にかかる国の姿勢が腰砕けになっている状態で、教員に代わる担い手を見つけていくために模索しているところである。

草津市はクラブチームの活動が盛んで、都市型のようなスポーツ推進の形になってきており、競技力向上も含め、クラブチームで担うことのできるものはそちらで推進していかななくてはならないと考えている。

体制的な部分については、先ほども申し上げたとおり、部活動の在り方や学校の体制について検討しており、生徒・教職員双方へのアンケートなどを毎年実施している。

【副会長】

指導者の派遣について、指導者と顧問の先生とのコミュニケーションや、方針の違いなどが生じた時の対応が難しいという問題がある。

先ほどの体力向上の話になるが、アスリートの育成については、小さいころから基礎をしっかりと作っていかないと、育成は難しいと感じている。小学校、中学校の子どもの頃からの取り組みが大切である。

【事務局】

学校、教職員、そしてなにより子ども達の環境づくりを進めていくのは教育委員会の仕事でもあるので、それを見据えた運用を進めさせていただいている。

特に、幼少期からスポーツを始めることが大切だということも分かってきており、確かにスポーツを始めても、伸び幅が違う。小さいころからスポーツに触れる環境づくりが大切だと思っている。

【副会長】

中学校で取り組んでいた部活の種目が、高校に進学するとその種目の部活動がない、ということもあると聞いている。

【委員】

自分はハンドボールをやっているが、滋賀県の競技人口が非常に少ない。私立の学校だったので、中高と続けることができたが、中学校で強かった人が、高校で部活がなく、ハンドボールのクラブチームもないことから、競技を辞めてしまうということがあり、もったいないと感じていた。

【会長】

ここで整理しておかなくてはならないのは、中学校の指導者育成を含めた環境整備をしていく、というところだと思う。幼少期からスポーツをやったとして、成長した時に受け皿がない状況では、そこで終わってしまう。いかに受け皿を探していくかという点が課題である。競技人口の少ない種目は、クラブチームも立ち上がらないかもしれない。

種目ごとにどのように推進していくのかを考えられると良いのではないかな。すべての種目を同じ土俵で検討するわけにはいかない。

例えば、今の草津市の中学校に湖上競技の部活はないが、県のスポーツ協会は地域移行の形でこれに取り組もうとしている。

草津市はせっかくプールができるのだから、プールについては各中学校を集めて地域移行するのも良いのではないかな。それぞれの中学校で完結するのではなく、草津市全体として、種目ごとの方向性を持っても良いと思う。せっかくプールもあるので、「水泳の草津」として全国に発信していけると思う。各競技まんべんなく、ではなく、競技ごとの方針を考えていくと良いのではないかな。

【委員】

メジャーなスポーツにはクラブチームがあるものの、費用の問題で通わせることができない家庭もあり、そのような場合は学校の部活動に期待されるが、今後の部活動の在り方も変わる方向にある。以前のように部活動でアスリートを育成していく、というの

は無理である。また、以前ほどの保護者のニーズも減ってきていると思う。そうなってくると、体力向上という点では、低下の一途をたどってしまう。

【会長】

「新しい時代」ということで、何か模索されても良いかと思う。現状を維持し続けるのは難しい時代になってきた。国民スポーツ大会の各種目については、滋賀県のどこかの高等学校には部活動があるはず。全県一学区制なのでやりようはあると思うので、そういうところを教育委員会で考えても良いかもしれない。

他に、委員の皆様から御意見等ないか。

【委員】

基本方針３の部分、競技スポーツの推進について、目標として「滋賀県民体育大会における草津市の総合得点」があるが、令和５年度については県３位で、目標を達成できた。この場で御報告させていただく。

【会長】

「基本方針２ 生涯スポーツ活動の推進」について、３０代～５０代の運動実施率をどのように高めていくかが課題である。高齢者については、スポーツをする人、しない人の二極化してしまっている。

３０代から５０代の働き世代のスポーツ実施率をどのように高めていくか、という点について、先ほどのＦＭくさつでも、スポーツ番組を放送されるようになっており、スポーツに対する意識は高まってきていると思う。

スポーツ推進委員主催のウォーキングイベントの様子はいかがか。

【委員】

今年度の歩こう会の参加人数は落ち着いてきていて、８０～１００人前後で推移しており、令和６年度は県外のコースも積極的に取り入れている。

【会長】

ウォーキングマップの活用はされているのか。

【事務局】

最初に作成して以降、コースがそのままであり、増刷もされていないため、コースの見直しについても検討しても良いと考えている。

【会長】

今後、マップを活用していただけるような取組を検討されても良いと思う。

【委員】

年齢別の運動実施率について、総合型地域スポーツクラブでの会員は高齢者と小学生の二極化しており、中間層はほんの数人という状況である。現役世代にスポーツの機会を提供したいと考えて企画しても、なかなか集まっていけない。

【委員】

2小学校区をまたぐ地域スポーツクラブを運営しており、毎週土曜日に100名規模が集まり、体育館での種目と、グラウンドでは主にグラウンドゴルフを実施しているが、参加者はやはり65歳以上の高齢者がほとんどで、30代、40代の参加はほとんどない。子どもは祖父母の方に連れられて参加されることはあるが、その間の世代がすぼっと抜けてしまっており、どのようにアピールしていくかが課題だと感じている。平日だと参加していただけないので、土日に一時間でも良いから見に来てもらえるようイベントを企画していくつもりである。

もう一つ、クラブ運営の担い手が70歳以上の方が多い。見習いという形で若い人に入ってもらおうという取組も、来年度行おうと思っている。

【会長】

大学でも、30代～50代をいかに取り込むか、また取り込めなくとも、運動習慣をつけてもらうか、担い手となってもらうか、ということを考えている学生たちもいる。

この課題を抱えておられる総合型地域スポーツクラブや地域と、学生と一緒に話し合う機会があっても良いのではないか。

【副会長】

県内に複数大学があるのだから、一緒に何かできないか、広く模索していくとよいのではないか。

【事務局】

広域でスポーツ推進を考えていかなければならない時代になってきており、それぞれの大学の強みなどもあると思うので、それを踏まえながら進めていきたい。

【会長】

大学の方も知恵を出す必要があると考えている。小学生の体力向上プロジェクトだけでなく、中高年の方々に対するアプローチなどについても、関わっていく必要がある

と思う。30代から40代は仕事が忙しく、イベントに参加するのは難しいと思うので、自宅でどのように運動に取り組んでいただくかが課題である。

【委員】

仕事をしている人は忙しく、自宅であっても運動する時間を取ることが難しい。通勤手段を自転車に変えるなど、日常生活の中に運動を取り入れることで、スポーツ実施率を増加させるという手法を考えても良いのではないか。

【会長】

続いて、基本方針4、5について、委員の皆様から御意見いかがか。

基本方針4の目標である「社会体育施設等の利用者数」については、令和5年度実績では目標達成するだろうと思う。基本方針5の「スポーツによるまちの活性化」に関連して、今年度のランフェスはどうか。地域の認知度についてはいかがか。

【事務局】

今年度も大変好評であり、多くの方に参加いただいた。地域での認知度については、御存知の方もいらっしゃると思うが、犬の散歩で訪れた人が、「何のイベントをしているのか」とボランティアスタッフに尋ねられるということが度々あったと聞いており、地域に根差したイベントにする取組は、今後必要だと感じている。

【会長】

「みる」「支える」「知る」というところで、「こんなイベントをやっているんだ」「ボランティアに参加してみよう」という気持ちになっていただく、ということにも意味があり、走ることばかりではない。

【事務局】

ボランティアスタッフからは、たまたま会場に立ち寄られた方も一緒に応援して盛り上がった、という話も聞いている。参加者として関わるだけでなく、応援する、観戦する、キッチンカーで買い物をするついでに覗いていく、などのさまざまな関わり方があると考えており、スポーツという視点だけでなく、広い方面からアプローチしていきたいと考えている。

【会長】

コロナの影響で点数がほとんど3点という状況であった。令和5年度は点数がかなり高く出てくるのでは、と思っている。令和5年度の評価はいつ頃実施されるのか。

【事務局】

令和5年度については、年度末から翌年度初めを目途に各課・関係機関へ照会を行い、夏ごろまでにとりまとめを行う予定である。審議会の開催については、新志津運動公園整備にかかる会議日程と調整を行いながら進めていく。

【会長】

なるべく記憶が新しいうちに開催いただくようお願いします。

3. その他

・スポーツ中のリスク管理について

事務局が資料2に基づき説明

【会長】

大学の授業では、スポーツ中は必ず何らかのトラブルが起こると伝えている。それを前提として、誰がどのような役割で対応するのかをしっかりと相談しておかなくてはならないと伝えているが、実際にトラブルが起こった時には、混乱してしまっている。

委員の皆様からは、実際に起こったトラブルや、トラブルを防ぐ為の準備、準備していても起こってしまった事などについて共有いただきたい。また、リスク管理や、リスク管理を行う上での課題についてお話いただきたい。

私の方から事例を挙げさせていただくと、全天候型の種目、たとえばテニスなど、太陽の光でコート上が非常に熱くなり、大学側は活動禁止にしようとする。しかしながら、試合はその状態であっても実施されるため、学生が熱中症で倒れ救急搬送される。そうすると、大学の管理事務局がクラブ停止をするのだが、彼らは準備をしても倒れる、試合は暑くても実施されるのだから、禁止するのはおかしいという投げかけをしている。大学では、6～8月の間、おそらく10回以上は熱中症で救急搬送する事案が発生している。

【委員】

室内競技なので、高校時代、夏場は学校側が必ず冷房をつけてくれていた。しかし他の公立校に試合で行くと、冷房に慣れすぎて何人か熱中症で倒れてしまうことがあった。

対策として、夏場の暑い時期に外で体を動かすようチームで取り組むようにしていた。

怪我については、膝の怪我が多く、年に数人は膝の靱帯を切ってしまう状況であり、それを改善するため、トレーナーについてもらい、トレーニングをしたところ、少し改善した。

【委員】

ウォーキングでは、何かに躓いて捻挫される、というトラブルは起こることがある。冷やしたり、固定したりして、歩けそうであれば続けていただき、難しければスタッフが付き添って帰ったりする。テーピング類は持ち歩いており、2月には講師を招いてテーピング講習を実施した。救急講座についても過去に受講している。

【会長】

テーピングはけが予防のために巻くこともあるか。また、夏場は水を持ち歩いたりされているか。

【委員】

予防のための巻き方も教わっている。夏場はアイスノンを持っていくようにしており、元気がない方は、タオルにくるんだアイスノンを当てたり、脇の下を冷やすなどしてもらっている。

【副会長】

施設について、ボールが駐車場に飛んで行ってしまう、車にぶつかってしまう事故が起きており、対応に苦慮している。保険に入っているが、施設の整備ができていればそういった心配もいらない。野村グラウンドで競技を行っている、ファウルボールが交通量の多い大江霊仙寺線に飛んでいってしまい、車に当たってしまう。また、駐車場側についても、フェンスが低いためにボールが飛び越えてしまっており、困っている。

【委員】

10年ほど前に自分が在籍していた学校で実際にあったことで、体育祭でリレーに参加していた男子生徒が、走り終えた途端倒れ、心肺停止になるという事故があった。

ドクターカーに来ていただき、AEDを7、8回使用し、何とか命はとりとめた。学校や、体育施設にAEDはきちんと配備されているのか。自分の学校にはAEDは1台しかなく、各場所に置くことは難しいと思うが、何かあった時に対応できない。

AEDの使い方は講習を受けているが、使いたくてもない状況。

【会長】

これは大事な話で、裁判事例にも出てくるような内容である。体育館にはあるが、グラウンドにはAEDが届かないというケースがある。また、AEDがあっても、いざ使用するときは緊張してしまって、非常に勇気がいる。

【副会長】

社会体育施設でAEDを使用する場面があり、講習を受けていたため対応することができたケースもある。

スポーツイベントを開催した際、イベントに向かうために家の階段を下りた際に捻挫をされ、保険請求をされることがあった。会場内での事故は対象になるが、道中の事故は対象にならないため、少しトラブルになることがあった。

【委員】

地域スポーツクラブでは、高齢者が多いため、初めに無理をしないよう声をかけている。また、教室を始める前に、出欠確認を必ず行っている。高齢で一人暮らしの方もおられるので、安否確認の意味も込めて行っている。

【委員】

クラブの会員にはスポーツ保険への加入を義務付けている。この保険は教室に参加するまでの道中についても補償の対象となるものである。

【会長】

危機管理としての保険を活用されている。他にも、指導者保険というものもあり、これをどこまで掛けるのか、チームで加入してもらうのかという問題もある。

それよりも、小中学校にAEDが1台しかない学校もあるというのは課題だと思う。

【委員】

非常に費用が高いということは理解しているが、お金の問題ではないと思う。今は1台だが、近々もう1台設置いただくとは聞いている。

【会長】

大学で困っているのは、AEDはグラウンド近くの建物に設置しているが、グラウンドで事故が起こった場合にAEDの場所を選手たちが把握していないことである。

【委員】

大学内でAEDを使用したケースはあるのか。

【会長】

そういったケースも発生している。大学でも怪我や事故は非常に多い。

本日のように、色々な団体に集まっていただき、困りごとについて話し合ったり、情報共有できる機会を取り組んでいただけたら良いと思う。

委員の皆様から他に何かないか。

【委員】

部活動地域移行の受け皿について、無償で指導を引き受けることは不可能。そのあたりを考えていかないと、地域移行は進まないと思う。

【会長】

今年は国スポのリハーサル大会があると思うが、そのあたりについて、事務局から何かあるか。

【事務局】

今年はリハーサル大会を6競技開催する予定であり、後日資料等を委員の皆様にお送りさせていただく。またボランティアについても募集中である。いよいよ本番が近づいてきたので、委員の皆様にも御協力の程よろしく願います。

また、水泳競技において、リハーサル大会を開催する予定であったが、プールの底の工事を行ったことで、一部内容を変更した。

【会長】

このプレ大会は非常に大切。できるだけ成功で終わらせていただきたいと思う。

【事務局】

本日いただいた皆様の御意見を参考に、第2期草津市スポーツ推進計画に基づく各事業の更なる推進に向けた取組を進めてまいりますので、引き続き委員の皆様には御協力をお願いします。ありがとうございました。

—閉会—